

全校朝会（サザンカ）

2018. 12. 17

6年生に、2018年の思い出を聞きました。

この間、日本の伝統文化の学習の1つとして茶道、お茶の授業がありました。「和敬清寂」という言葉や「思いやりとおもてなし」という考え方を教えていただきました。「和敬清寂」の「和(わ)」とは、お互いに心を開いて仲良くすること、「敬(けい)」は、尊敬(そんけい)、お互いに敬い合うということ、「清(せい)」とは、清(きよ)らかという意味ですが、目に見えるだけの清らかさではなく、心の中も清らかであるということ、「寂(じゃく)」とは、どんなときにも動じない心だということです。

「おもてなし」はお招きしたお客様のことを考える心や温かい気遣いや言葉のことです。この間のお茶の学習の時には、お茶の先生が、自分が小学生だった時のお習字を掛け軸にしたものを持って来てくださり、お花はその場所にあるものがふさわしいと思うとおっしゃるので、学校の中で今一番色鮮やかな山茶花を手折らせていただいて活けました。6年生も去年教えていただいたと思うのですが、5年生も6年生も大切な言葉や考え方を伝える人になってほしいです。

さて、今出てきた山茶花ですが、昔は「さんさか」とか「さんざか」と言っていたようですが、江戸時代の頃に「さざんか」という読み方になったそうです。日本語っておもしろいです。「茶」という字が入っているので、お茶の木の仲間、若葉を乾燥させたものは飲み物にもなるそうです。本当は、お茶の時にはお茶の花や山茶花の花は「茶」という字が入るのであまり飾らない、飾るのは野暮、粋じゃないということでした。でも、私はおもてなしの心があるのならお茶の席で飾ってもいいのではないかなと思っています。気持ち、心の方が大切だと思うからです。

山茶花が出てくる歌もあって、昔から日本にある歌では「たき火」という曲が有名ですが、私は、今年のピョンチャンオリンピックのテーマソングになっていた SEKAI NO OWARI の「サザンカ」がとてもいい曲だなと思います。でも、この曲には「サザンカ」という歌詞は出てきません。なぜ、「サザンカ」という曲名なのだろう・・・とっていました。「サザンカ」の花言葉に「困難に打ち克つ」や「ひたむきさ」などがあるそうです。この言葉がこの曲のテーマとぴったりだということで「サザンカ」という曲名がつけられたようです。

最後の歌詞は「夢を追う君へ 思い出して つまずいたならいつだって 物語の主人公は笑われる方だ 人を笑う方じゃない 君ならきっと」という歌詞です。私はサビの歌詞もいけれど、「誰よりも転んで、誰よりも泣いて、誰よりも君は立ち上がってきた」「僕は知っているよ 君が一番輝いてる瞬間を」というところがとても好きです。

オリンピック選手だけではなくて、私たち一人一人は、みんな毎日精一杯頑張っているのだと思います。私は、「サザンカ」の曲は、自分のことも友達のこと家族のことも、みんなみんな応援してくれるような気がします。どんな曲か知らない人や忘れてしまった人は、ぜひ一度、聴いてみてください。